

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	_____ 工 _____ 学部・大学院 _____ 材料・応用化 _____ 学科・ 専攻		
留学先機関名	アルバータ大学 (国名： カナダ)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマースクール ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2019 年 8 月 13 日－ 2019 年 9 月 11 日	留 学 開 始 時 学 年	_____ 2 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 (熊本大学) ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 _____ 期】 ☐ その他 (_____)		

1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	グローバル科目の教養をとったり、外国人留学生との交流会へ参加したりと、リスニングとスピーキング力の向上に力を入れた。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☐ プログラム費用 300,000 円 ☐ 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費(□片道 ☒ 往復) 300,000 円 ☐ 海外旅行保険料 30,000 円 ☐ 食費 30,000 円 ☐ その他() 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL、AIR CANADA	手配	九州産交ツーリズム ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本→成田(東京)→バンクーバー→エドモントン	到着時刻	18:11 【※移動時間(約 24 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人のお迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(□バス □電車) □その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	大学手配のバスに乗ったため、料金はかからなかった。日本との寒暖差に注意する。		
宿泊先	☒ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☐ 一人部屋 ☒ 二人部屋 その他()	ルームメイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	研修費をクレジットカードで支払うため、事前に上限金額を引き上げてもらう。帰りに荷物が増えるので、スーツケースに余裕があればボストンバッグなどを入れておくと良い。現地でのデータ通信については、ネットで購入できるSIMカード(30日用)を使用した。また、交通機関を利用する際は、マンスリーパスを購入するとバスも電車も1ヶ月乗り放題になる。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	午前中は、リスニングやスピーキングを中心とした授業が行われた。 “multiculturalism” や、“immigration” など様々なテーマがその日ごとに組まれており、テーマについて動画を視聴したり、2～4 人 1 組のペアを組みプレゼンテーションやロールプレイを実施したりしながら理解を深めた。 また、午後のアクティビティは、学生ボランティアの方にアルバータ大学のノースキャンパスや工学部を案内・解説してもらったり、ゴルフ・コーンメイズ体験、student engage centre でのグループトークや毎日変わるイベントなど、充実した活動内容だった。さらに、二泊三日でカナディアンロッキーを訪れ、Lake Louise, Moraine Lake, Johnston Canyon, Banff Downtownなどを観光した。Lake Louise ではカヌー体験も行うことができた。 スケジュールとしては、平日は学校での授業と午後のアクティビティ、休日はロッキーツアーやホストファミリーとの交流が中心だった。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	ボランティアの学生が質問や相談に乗ってくれたり、student engage centre の学生や先生も毎週のアクティビティでサポートしてくれた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	大学の wi-fi に接続するために必要なパスワード、g アカウントなどを登録した。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	事前に購入していた本にのっていた、アルバータ博物館やファーマーズマーケット、アルバータ議事堂などの観光、ウェストエドモントンモールや south common でのショッピングを楽しんだ。ホームステイが始まってからは、ホストファミリーの子どもたちと公園で遊んだり、ホストマザーとの会話を楽しんだ。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

まず、リスニング能力が向上した。授業ではもちろん、お店やバス、ホストファミリーとの会話において、生活する上でリスニングは必要不可欠である。最初は、レストランなどで店員さんの話が聞き取れず意思疎通がとれなかったりしたが、授業や映画鑑賞など毎日積極的に英語を聞くことで、だんだん耳が慣れ速さについていけるようになった。

次に、スピーキング能力だ。特にホストファミリーと会話するとき、今まで目にしたことのない単語がとて多く、学校での勉強と日常会話は全く違うと実感した。

しかし、どうやったら言いたいニュアンスを正確に伝えられるかを自分で繰り返し考えることによってスピーキング能力が鍛えられたように思う。カナダは移民の国で、しかもホストファミリーは南アフリカ出身だったので、他の国の文化や生活事情に興味を持つようになったと共に、ホストマザーや先生から学んだ。

さらに、コミュニケーション能力も向上したとを感じる。1ヶ月共に学んだ熊本大学の友達や黒田先生をはじめとして、学生ボランティアの方たちや、ELSの先生方、ホストファミリーなど数え切れないほどの人たちと出会い、初対面の状態から親睦を深めた。今までなかなか自分から人に話しかけようとは思わなかった自分にとって、大きな成長だと思っている。また、親元を離れ食事・洗濯すべて自分で考え生活したこの1ヶ月は私を自立させてくれた。英語力はもちろん、これから社会で生きていく中で必要な能力を成長させることができたと考えている。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

1ヶ月、とても充実したプログラムやツアーが毎日のように組まれており、実践的な英語力を身につけるいい機会になると思う。

アルバータ大学は、非常に広く自然が豊かで、学生数も多い分、狭い価値観にとらわれず一人一人の個性のあふれている大学だと感じた。そういう場で学ぶ日々は、一生ものの思い出と経験を与えてくれると確信している。

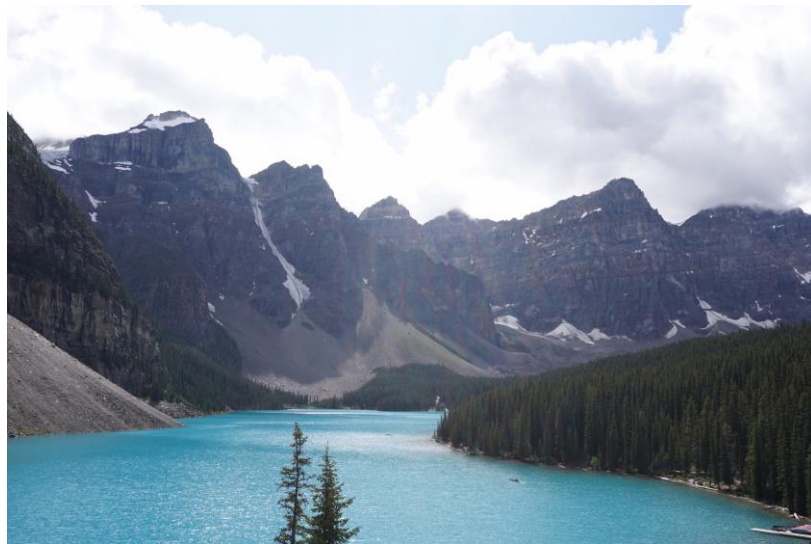
留学を通しての感想

私自身、長く海外に滞在すること自体初めての経験だったので不安が大きかったが、担任の先生や同じ熊本大学の学生、何よりホストファミリーのおかげで学びの多い充実した1ヶ月を過ごすことができた。また、この留学を通して自分の英語力の低さを痛感し、1年間留学したいとも考えるようになった。この経験を無駄にしないように、カナダで学んだ、自分から行動を起こすこと、間違えることを恐れずに過ごしていこうと思う。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	B さん		
所属	工 学部・大学院 物質生命化学 学 科・専攻		
留学先機関名	アルバータ大学 (国名： カナダ)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2019 年 8 月 13 日－ 2019 年 9 月 11 日	留 学 開 始 時 学 年	3 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 (熊本大学) ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 () 語)		
勉強方法	TOIEC の学習 システム英単語 Vintage		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよ その費用)	☐ プログラム費用 30 万 円 ☐ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費 (□片道 ☒ 往復) 30 万 円 ☐ 海外旅行保険料 2 万 円 ☐ 食費 10 万 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL エアカナダ	手配	学校 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本～羽田 成田～バンクーバー バンクーバー～エドモントン	到着 時刻	移動時間約 1 日 【※移動時間 (約 時間)】
大学 (寮) への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☒ 公共交通機関 (□バス ☒ 電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	電車のチケットを購入する。		
宿泊先	☒ 寮 ☒ ホームステイ その他 ()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他 ()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他 ()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他 ()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	クレジットカードの準備 海外 SIM カードの手配		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	平日は8:30~12:3まで授業がある。午後は基本フリーだがプログラムが組まれている日もある。土日は基本フリー。最初の5日は大学の学生寮に泊まり、残りはホームステイとなる。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	大学ごとに一人サポーターがつき、プログラム活動場所や学校の案内やその他のサポートをしてくれる。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学IDの設定等）	宿題提出のためのGメールアドレスの発行 授業料の支払い
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	ネットで観光名所を調べて、友達と一緒にいった。ホームステイファミリーがいろんなところに連れて行ってくれる人もいたが、私のところは連れて行ってくれなかったため、自分で調べて予定のない友達と過ごした。遠いところはバスや電車で行くことが出来なかったため、友達のホームステイファミリーに連れて行ってもらった。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

毎日の英語の授業によって、英語のスピーキング、リスニング力が向上した。授業は、カナダと自国の文化の違いや国際問題などの内容に絡めたものであったので、英語力の向上だけでなく、カナダの様々な文化を知ることが出来た。さらに、自国である日本について知識を増やし、日本には独自の文化があり、それを英語で説明する能力を身に着けることが出来た。持続可能な社会や食品廃棄についての授業では、問題解決のために自分でできることは何かあるかということを考えるきっかけとなり、さらに世界各地で貧困問題や難民問題など様々な問題が存在していることを知った。

三週間のホームステイ生活を通して、現地に住む家族と生活を共にすることで、現地のレストランや生活スタイルを体験することが出来た。さらに、英語でホームステイファミリーと自力で会話をする中で、リスニング力、スピーキング力、語彙力をつけることが出来た。また、海外で生活することで、海外と日本の生活、分化、人の違いを知った。

アルバータ大学工学部見学を通して、今まで見たことのないような大規模な研究施設を見て、自分もこんな大きな施設で世界規模の研究をしてみたいと思った。特に自分の分野(化学系)について、徹底した衛生管理が印象的であった。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関する事など自由に記載してください）

毎日の授業では、積極的に発言をして先生とコミュニケーションをとることが大切である。英語力が十分になくても伝えようとするのが大切だと感じた。ホームステイ中もたくさんホームステイファミリーと会話できるように部屋にはこもらず、できるだけファミリーと過ごす時間を増やせるように工夫することが大切である。ホームステイ先の人々が忙しくあまり一緒に過ごせなくても食事中などの会話できる機会を大切にすること。また、学校にはいろいろな国の人がいるので、話してみるのもいい経験になると感じた。休日は、積極的に外に出るといろいろな発見が出来ると思う。

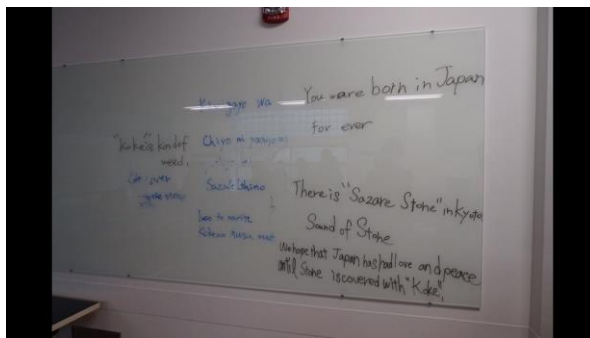
留学を通しての感想

今回の留学では、日本での生活ではできない経験がたくさんできた。日本で生活しているとそれが当たり前になっていたが、一か月海外で生活してみて、日本独自の習慣だったり、日本人の特徴をたくさん発見した。たとえば、日本人はシャイであり、知らない人に話しかけたり、人と違ったことが出来ないと感じた。授業中も積極的に発言が出来ないために授業が進まなかったりすることがあった。この留学を通して、英語力向上には失敗を恐れず積極的に英語を使ってしゃべることが大切であると感じた。このことは英語の学習以外でもいえ、物事は何でもやってみることが大切だと思う。私は留学前の一番の不安要素はホームステイであった。日本人が自分以外いない環境の中できちんとコミュニケーションをとることができるかものすごく不安であった。言っていることを聞き取り、それに応答するために即興で英文を考えることは、最初のほうはとても大変であったがだんだん慣れてきて自然に会話することが出来た。しかし、ホームステイファミリーに日本の事について聞かれたときに答えることが出来ないことがあったため、日本に関する知識をもっと身に着けておくべきだったと感じた。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	C さん		
所属	工 学部 機械システム工 学科		
留学先機関名	アルバータ大学 (国名： カナダ)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2019 年 8 月 13 日－ 2019 年 9 月 11 日	留学開始 時学年	3 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 (熊本大学) ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☒ 有 ☐ 無 種類 (eTA)	ビザ申請先	☒ 国内 ☐ 現地 場所 (オンライン申請)
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	工学英語のオンライン教材を集中的に取り組む		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよ その費用)	☐ プログラム費用 282,000 円 ☐ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) ※プログラム費用に含む ☐ ビザ申請 600 円 ☐ 渡航費 (☐ 片道 ☒ 往復) 280,000 円 ☐ 海外旅行保険料 25,000 円 ☐ 食費 20,000 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL, エアカナダ	手配	九州産交ツーリズム ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本空港→羽田空港→成田空港→バンクーバー空港→エドモントン空港	到着時刻	日本時間 8/13 18:11 【※移動時間（約24時間）】
大学（寮）への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関（ ☐ バス ☐ 電車） ☐ その他（ ）		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	キャリーバッグが届かないことがある。（13名中9名が届かず、深夜に到着した）		
宿泊先	☒ 寮 ☒ ホームステイ その他（ ）	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他（ ）
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他（ ）	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 （ホームステイ：一人部屋）
その他生活に必要な 手続き、アドバイス （口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など）	ポケットwi-fi を使うべきではない。トラブル（公共交通機関の麻痺）に巻き込まれた友人（ポケットwi-fi 使用）と連絡が取れない事態になった。日本からでも現地 sim 申し込み可能である。私はそうした。 キャリーバッグの重さを計測する手段を確保すべき。帰りは荷物が増えるため。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	祝日を除く平日午前はすべて授業が行われた。 8:30-10:30 授業, 10:30-11:00 休憩, 11:00-12:30 授業 「ファストフードの注文の仕方」から「移民差別問題」まで様々なテーマが取り扱われた。英語の勉強というよりむしろ、英語を使ってグローバルなテーマを学習する授業構成であるという印象であった。 授業では、先生の講義を聞くだけではなく、ロールプレイングやスピーチも組み込まれていた。 午後の活動は、予め計画されていたアクティビティ（引率者に率いられ、熊大生全員で参加する。）に参加するか、予定のない日はディベート等のアクティビティに申し込み参加する、あるいは各自で観光など自由に過ごす、のいずれかであった。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	アルバータ大学が提供する授業プログラムは、英語を学ぶのに関して非常に充実していたと思う。 学校生活は、当初予期していたものとはだいぶ異なった。様々な国の留学生と英語でコミュニケーションをとることを望んでいたが、実際には、新潟大学や岐阜大学など、多くの日本人学生が同時期にプログラムに参加していた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	困ったことや特筆すべきことは特にない。担当者の指示に従った。熊本大学の学生証は使用しなかった。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	世界で 10 番目に大きいショッピングモールであるウエストエドモントンモール、州議事堂、エドモントンのダウンタウンなど、見どころは多く、退屈することはなかった。 ホストファミリーが私との会話を楽しんでくれたので、基本的には彼らと過ごした。彼らと行ったドッグランの散歩が最も印象的であった。1 時間ほどの時間をかけて歩き、その間に英会話を楽しむことができた。 可能な限り英語を使う機会や現地の人と触れ合う機会を増やそうと努力し、休憩時間ごとにコーヒーショップに立ち寄ったり、観光地では通行人に写真撮影をお願いしたりした。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

ホストファミリーのアンソニーが言うには、「君のリスニング力はまだまだ不十分だが、話す能力は初日に比べるとずっと良くなっている」。その時実感が無かったが、ネイティブスピーカーの彼が言うのだからそうなのだろう。

語学学校で行われた授業では、「聞く」あるいは「準備して話す（スピーチ）」が主体であり、日常会話をおこなう機会は予想よりも少なかった。そのため会話に関して言えばホストファミリーの助力が大部分を占める。

幸運なことに私の家族は、学生との交流を目的とする家族であった。片言の英語に耳を傾けてもらい、辞書を片手に毎日様々なことを話した。日本のアニメーションや漫画から、カナダと日本の文化の違いに至るまで、多岐にわたる話題で交流を深めた。

日々可能な限り彼らと過ごす時間を増やし、英語力の向上を目指すというよりむしろ、限られた時間で交流を楽しむという意識であった。結果的に英語の能力も向上した。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

授業に関して言えば、十分満足できる内容だ。英語を使って国際問題や人種の多様性を考えたり、自国について見つめ直したりなど、非常にアカデミックな講義である

ただし、語学学校の生徒は日本人が大半を占める時期であり、さらにクラス全員が熊大生であった。来年度以降は不明だが、その点は拍子抜けする人がいるかもしれない

最も大きい問題はホストファミリーの「当たりはずれ」だ。ビジネスとしてホームステイを受け入れる家族がいることも事実だ。事前のホストファミリー調査書の記入時に、自己アピールを十分に行うことがミスマッチを防ぐ手段かもしれない。（私の場合、趣味が合い、気が合う家族と巡り合うことができた。）

忙しくても英語の事前学習は必要だ。私は英文法を忘れかけていたので、留学中に何度もインターネットで復習を行った。日本でできることは日本ですべきだ。

1 か月は思いのほか短い。ひたすら動いて、一つでも多くの経験を積むべきだ。それと同時に、心と体がエネルギー切れを起こさないように十分気を付けるべきだ。

留学を通しての感想

私はこれほどまでに充実した夏休みを過ごしたことがない。

毎朝7時に起床し、午前中を有意義に過ごす。これを丸ひと月続いただけでも、素晴らしいことだ。小学生の頃から「夏休みの抱負」で早寝早起き朝ごはんを心に誓ったが、守れた試しがない。カナダという異国の地で、一日も無駄にしたいくないという意識が良かったのだろう。

事実、一日も無駄にしなかったと思う。渡航の直前に一眼レフカメラを購入し、暇があればカナダの特徴的な光景を探して散歩した。日々が発見の連続だった。

ホストファミリーと交流を深めるだけでも多くの発見があった。例えばホストファミリーに、「日本では teacher 以外にも SENSEI と呼ぶが、こういった基準なのか」と聞かれたことがある。何気ない会話の随所に、このような小さな発見があふれていた。

思い返せばカナダで過ごす日々は夢のような時間であった。この夏休みは間違いなく、私の生涯で最も素晴らしい日々であった。

